

# 朗報! 下肢静脈瘤のレーザー治療に保険適用

## 「健康できれいな脚」に…

人類が二足歩行をはじめて以来、常に人々を悩ませてきたという宿命の病・下肢静脈瘤。

古代ギリシャの頃、すでにその記録があるといひます。今までは根治のための治療法としては、2週間ほどの入院・手術が一般的でしたが新しい治療法が普及の途につき誰でも気軽に手軽に短時間に、「美しい健康な脚」を取り戻すことが可能になりました。

そんな新しい切らない手術・血管内レーザー治療について、心臓血管外科がご専門の新葛飾病院の吉田成彦院長にお話を伺いました。

心臓血管外科専門医・修練指導医  
日本胸外科学会認定医  
日本外科学会専門医  
日本外科学会指導医  
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施医

新葛飾病院 院長  
よしだ しげひこ  
吉田 成彦 医師



医療法人社団 明芳会

# 新葛飾病院



マイ・ホスピタル Vol.34 (2012.7)より抜粋

ザーの時間は20分くらい。その後、瘤切除をして、そう…全部で40分くらいで終わります。

――十分日帰りができますね！

吉田 ええ、でも当院では、1泊入院にしています。

――手術は1時間以内でも！？

吉田 手術後の観察が必要です。レーザー焼却で血栓を作って血流を止めるのですが、わずかでも血流があつたら、血栓は飛んでいきます。

――それは怖いですね。

吉田 血流は止まっているか、確認してからお帰りをいただきます。確認のために通常、手術翌日、1週間後、1ヵ月後にエコー（超音波）検査をします。日帰りの翌日また来院されるのも大変ですし、簡単な手術とはいえ、包帯と弾性ストッキングで保護していますから、翌日はまだ歩きにくいですし…。

術後の経過観察はしっかりとさせていただきます。

平成23年1月から保険適用になった！

――下肢静脈瘤の人は多いので

すか？

吉田 高齢化による患者さまの増加はありますね。ある統計では70歳以上の70〜75%の人は、何らかの症状があるそうです。ごく初期の軽症も含めてですね。

――男性よりも女性に多いそうですが？

吉田 女性には妊娠がありますから。でも男性も含めて半分以上は遺伝が原因ですね。

――弁は遺伝の影響が強い？

吉田 そうみたいです。下肢静脈瘤では遺伝は重要な因子だと思います。それに環境因子。立ち仕事の人がなりやすい。私ら外科医仲間にもいる、外科も立ち仕事ですからね（笑）。

――手術が必要という判断は？

吉田 小さな静脈瘤は治療対象になりません。見た目が大きな基準になりますね。デコボコが大きいようでしたら、病院で検査を受けてください。長さよりも太さです。

――簡単にわかるんですか？

吉田 手術が必要か否かは、痛みもなく簡単・正確に診断でき

るエコー検査をします。まずは気軽に検査だけでも受けてください。今までの手術は大変でしたが、レーザー治療なら簡単です。切らないし、傷口は小さく、短時間。「明日またくるから日帰りで」というご相談にも応じます。それに、レーザー治療は平成23年の1月から保険適用になりました。「手術！」と大げさに構えず、気軽に治療してください。

予防は「歩く」が一番！

――下肢静脈瘤の予防は？

吉田 立ったまま、じっと動かないのが一番いけません。仕事上じっと立ち続けることが多い、という方はつま先立ちや屈伸をしたり、脚を動かしましょう。静脈は動脈のように心臓の圧力が働きます。脚の、特にふくらはぎの運動は、筋肉が収縮し静脈を刺激して血流を促します。時間を見つけて歩くことが一番です。

――病院ではどの科に行けばいいですか？

吉田 専門は血管外科か、



医療法人社団 明芳会 新葛飾病院  
〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-26-5  
TEL.03-3697-8331 <http://www.ims.gr.jp/shinkatsu-hp/>  
©記事内容に関するお問合せ 03-3697-8333 (地域医療連携室)

心臓血管外科を訪ねてください。エコー検査は簡単な検査です。そしてレーザー治療は、心臓血管外科認定医なら、どんなお医者さんにもできる、難しくない手術です。早期発見・早期治療は治療の基本！

見た目で気になったら早めに来院し、気軽にエコー検査をして軽いうちに治療しましょう。こぶやむくみのない健康な美しい脚は、暮らしを楽しくしてくれますよ（笑）。

――保険適用は、本当に朗報ですね。お忙しいところ、ありがとうございました。





エコー検査



皮膚に浮き出たこぶ状の静脈瘤

ん、治すには手術のみです。  
——**どんな手術があるんですか？**  
**吉田** 一般的なのがストリッピング術。これは静脈瘤のある血管を引き抜く手術法です。脚の付け根と足先を切開し、静脈瘤のある血管にワイヤーを入れ、ワイヤーの先端と血管を固定し、脚の付け根からワイヤーと



ELVeSレーザー本体



レーザー治療の様子

一緒に血管を引き抜きます。全身麻酔や下半身麻酔が必要で、1～2週間入院します。これだと患部周辺の組織や神経などへのダメージが心配です。  
ほかに硬化剤を血管内に注入する硬化療法、深部にある大伏在静脈を脚の付け根に近い個所で縛ってから一部を切除する高位結紮術などがありますが、治

か？  
**吉田** そう。脚の付け根まで入れたレーザーファイバーを、800度で血管を焼きながらゆっくり膝の内側から抜いていきます。血液は沸騰して血栓になり、シュートとしばらくで細く固化します。

——**体の中の血管を焼くんですか？**  
**吉田** 静脈瘤のある血管に、細いレーザーファイバーを入れ、レーザー発生器から送られるレーザーを先端の装置から発して、ちよつとずつ焼きながら移動していきます。レーザーファイバーを入れるのは、膝の内側から脚の付け根まで、20～25センチくらいです。

——**小さな傷でどうやって治療を？**  
**吉田** レーザー治療は、治療効果が高く、再発も少ない。治療の傷は2ミリほどで注射と同じ。極めて低侵襲な治療です。  
**体にやさしい治療法**  
——**小さな傷でどうやって治療を？**

か？  
**吉田** 20～25センチ位を焼いていく時間は5～6分です。麻酔を入れる時間を入れてもレ

**当院のレーザー治療は1泊入院…**

——**手術時間はどれくらいですか？**  
**吉田** いや、レーザー照射をするのは膝上の大伏在静脈で、膝から下の皮膚表面に浮き出た静脈瘤は、瘤切除します。小さくメスを入れて静脈瘤を引き出し、糸で縛って切り取り、他は元に戻す。静脈瘤の量により、少しの切除だったり、広範囲な切除だったりします。正確には、レーザー治療＋瘤切除、というのが正しい治療名ですね。

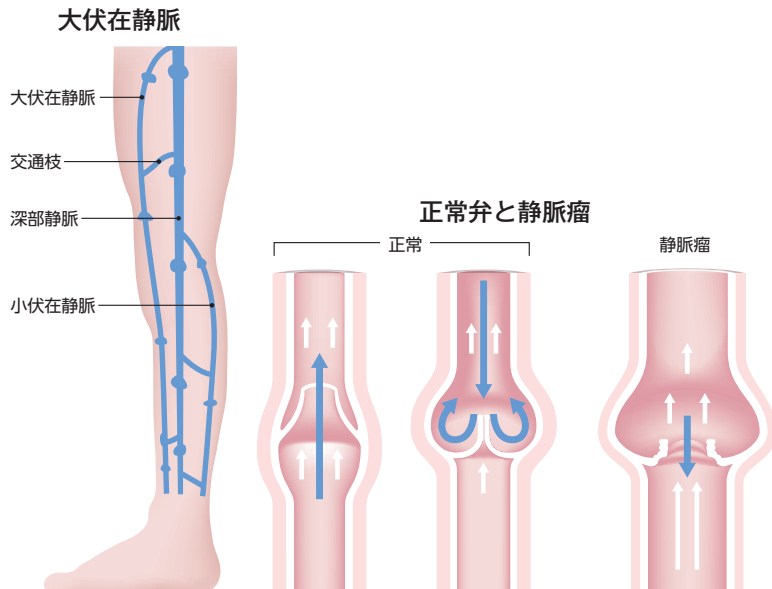
……  
**吉田** 2ミリほどのレーザーファイバーを入れる個所と、焼却する血管の周りを局所麻酔します。麻酔液はやけど防止にも大事なんですよ。  
——**小さな静脈瘤もレーザーで…？**  
**吉田** いや、レーザー照射をするのは膝上の大伏在静脈で、膝から下の皮膚表面に浮き出た静脈瘤は、瘤切除します。小さくメスを入れて静脈瘤を引き出し、糸で縛って切り取り、他は元に戻す。静脈瘤の量により、少しの切除だったり、広範囲な切除だったりします。正確には、レーザー治療＋瘤切除、というのが正しい治療名ですね。

当然、逆流も滞留もなくなり、静脈瘤は消えますね。

——**麻酔は使いますか？**

——**弁が壊れる原因は？**  
**吉田** 先天的に弱いという遺伝性、年齢とともに弱ってくる加齢、妊娠時の大きくなった子宮によって下腹部の静脈が圧迫され血液が滞留する、などが原因といわれています。  
**手術でしか治らない…**  
——**治療にはどんな方法がありますか？**

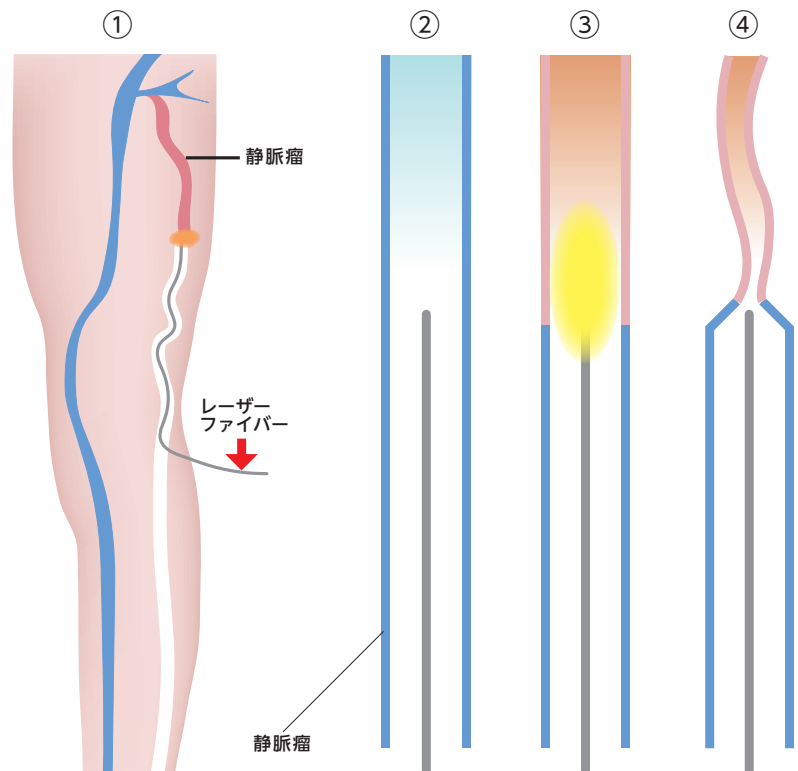
**吉田** 手術しかないですね。弁が壊れる病気ですから。  
——**弁はどんな性質なんですか？**  
**吉田** 弁はオブラートみたいに透明で、ペラペラなんです。弁自体には神経も血液も通ってなくて、自立的な機能はなく、血液の流れでふらふら動いている。一度ダメージを受けると再生できないんです。治す薬はありません。



**脚の血管がこぶのように膨らむ…**  
——**下肢静脈瘤って、どんな病気ですか？**  
**吉田** 脚の静脈が青く浮き上がって、こぶのように膨らむのを下肢静脈瘤といいます。1～2センチ血管が浮き出ている状態から、ポコポコとこぶ状になったものや、網目や蜘蛛の巣状になったものなど、大きさや形状はさまざまです。

——**見た目の悪さ以外には、どんな症状がありますか？**  
**吉田** 病気だと思っていない人が多く、かなり目立っても放っておくことが多いですね。症状としては、足がだるい、重い、痛い、かゆい、むくむ、足がつる、こむらがえりが起こりやすい、などでしょう。重症になると、脚の色が青黒くなったり、潰瘍（ただれ）が起きたり、皮膚が象の皮のようにカチカチに硬くなったりします。先週手術した患者さまは、堅くてメスが入らないくらいでしたね。

——**原因はなんでしょう？**



膝の内側からレーザーファイバーを入れ、脚の付け根から膝の方へ抜きながら、800℃で焼き固める